

## 科 目 名

# 医療福祉工学

## Medical and Assistive Engineering

1年 前期 2単位 選択

米 満 弘 之

### 概 要

高齢化社会が近づき障害を持つ人が増え、医療機関のみならず在宅での介護も重要となっている。そこで広く人の健康に関わる機器を具現化する高度の技術、適格な情報の交換、患者のもつ障害を問題にするのではなく、残された能力をいかによりよく発揮し、「全人間的復権」を目指したリハビリテーションの考え方が基本的に大事になる。つまり、21世紀は高齢者や障害をもつ人の介護とともに、健康で生きがいを感じれる自立した生活を送れるために、生活の質（クオリティ・オブ・ライフ）が問われるであろう。これらの事について、工学方面からの寄与についてのみならず、全体像と問題点をも論じる。

### 目 標

医学と工学の接点および福祉の視点の重要性を理解する。

### 授業計画

テ ー マ	内 容
1 日本社会の変遷	人間が創り上げた社会は医療・福祉からみたら、どのような歴史をもっているか。
2 日本社会の方向	保健・医療・福祉からみた将来の方向をさぐる。
3 リハビリテーション	「自立した人間」を目指す全人間的復権について。
4 医療・福祉の制度	社会は制度のネットワークで、構成されている。
5 医療・福祉を支える人々	安心社会（福祉社会）は多くの人々が支えている。
6 医療と工学	医療の世界では工学技術が利用されている。
7 福祉と工学	障害をもった人々や高齢者を支える工学技術について。
8 健康と工学	健康生活を支える工学技術。
9 医療・福祉の現場体験	医療・福祉の職体感を体験する。

### 評価方法

試験と出席率および平常点より総合的に評価する。

### 教 材

プリントを中心に講義を行う。